

## 60周年記念号「鉄鋼技術の進歩」の編集について

日本鉄鋼協会創立 60 周年記念号

編集委員長 堀 川 一 男

日本鉄鋼協会はここに満 60 周年を迎ましたが、協会ではその記念事業の一環として、会誌「鉄と鋼」臨時増刊号「鉄鋼技術の進歩」を刊行することとなり、その編集に関する一切の業務は日本鉄鋼協会編集委員会に委嘱されました。同編集委員会では本書の刊行企画のため、和文誌分科会メンバーを中心とする「60周年記念号編集委員会」を設置し、さらに製銑、製鋼、鑄物、加工、および性質の各部門ごとに「専門委員会」を構成して具体案を作成し、必要に応じて共同研究会などとも密接な連絡をとり意見を求めながら編集作業を進めて参りました。

ところで、日本鉄鋼協会では昭和 40 年に 50 周年記念号「鉄鋼技術の進歩」を上梓して好評を博しましたことはまだ記憶に新しいところであります。その後、今日までの 10 年間におけるわが国の鉄鋼技術の進歩はいつそう目ざましいものがあり、世界の水準を抜くまでに至つておりますが、それとともに鉄鋼に関する科学の進歩もまた著しいことは周知の通りであります。そこで、今回の 60 周年記念号では「最近の 10 年間におけるわが国の鉄鋼の科学と技術の進歩の跡を総合的に展望して、世界のすう勢に対する位置づけを行うこと」を基本方針として、製銑、製鋼、鑄物、加工、性質の各部門を中心とし、これに主要な周辺技術をも含め、とくに進歩発達の著しかった科学および技術について特集することにいたしました。

執筆方針としては、

- (1) 選定された執筆テーマが理論的あるいは技術的に現段階に到達するに至った過程を解説するとともに
  - (2) とくに技術的な進歩については、学問的背景についても考察し、さらに
  - (3) 将来への展望、期待される方向を述べる
- ことといたしました。

なお、各方面の多数の方々に執筆をお願いするに当り、執筆上の参考として各部門ごとの専門委員会で話題に上りました具体的な内容や、執筆上とくに織込んでいただきたい事項について、編集委員会の意図するところ、雰囲気などを執筆者にお伝えするよう努めて、全体の調和をはかったつもりであります。

また、設備、耐火物、原燃料、計測制御、コンピューターによるオンラインシステム、管理技術、その他の周辺技術や境界領域の問題、さらには公害、環境問題なども関連の章・節で盛込むようお願いいたしました。

さらに、記述の内容は網羅的なものあるいは文献羅列的な方法を避け、過去 10 年間における学術、技術の進歩のうち、なるべく重要なものののみに焦点をしぼり、読物風、評論風にまとめて執筆されるよ

う、特別な配慮をお願いいたしました。そのため、特に図、表などを他から転載する場合のような必要  
己むをえないもの以外は文献を記載しないことにいたしております。

多数の執筆者各位の御努力と、編集委員および協会編集課員、その他多くの方々の御協力によりまして、本書が立派に上梓されたことにつきまして、深甚なる敬意と謝意を表しますとともに、会長はじめ協会役員諸公の御協賛を得ましたことに対して厚くお礼申し上げる次第であります。

## 60周年記念号「鉄鋼技術の進歩」編集委員会

編集委員長	堀川 一男	副委員長	田中 良平
委 員	青山 芳正 安藤 卓雄 鎌木 俊郎 草川 隆次 郡司 好喜		
	阪部喜代三 下川 敬治 相馬 豊和 中村 正久		
製銑専門委員会	主査 鎌木 俊郎 幹事 相馬 豊和		
	委員 近藤 真一 佐藤 利雄 西田 信直 満岡 正彦		
製鋼専門委員会	主査 青山 芳正 幹事 郡司 好喜		
	委員 江島 彰夫 中村 泰 永井 潤 宮下 芳雄		
鋳物専門委員会	主査 草川 隆次 幹事 阪部喜代三		
加工専門委員会	主査 安藤 卓雄 幹事 中村 正久		
	委員 赤松 泰輔 大西 英明 加藤 健三 阪部喜代三		
	神馬 敬 吉谷 豊		
性質専門委員会	主査 田中 良平 幹事 下川 敬治		
	委員 荒木 透 石川英次郎 内山 郁 川村 和郎		
	鈴木 正敏 山岸 秀久 若松 茂雄		